

わたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう。

労働と休み

みなさんは休みをどのようにすごしていますか。次の空白にどのようにすごしているか書いて下さい。

聖書の安息日の教えは、地をたがやす季節にも刈

り入れ時にも、一週間のうちの一日を休みの日とし

て主のためにささげるといふものです。自然のいとな

みの中で、労働と休みは当然必要なものです。人は働

かなければ食べていけません。より快適な生活を求

めて働かざるにはよくありません。適当な休みが

あつてこそ、新たな気持ちを持つて働く意欲が出て

くるものです。

休むのは、体を休めるだけでなく、自分の生活を

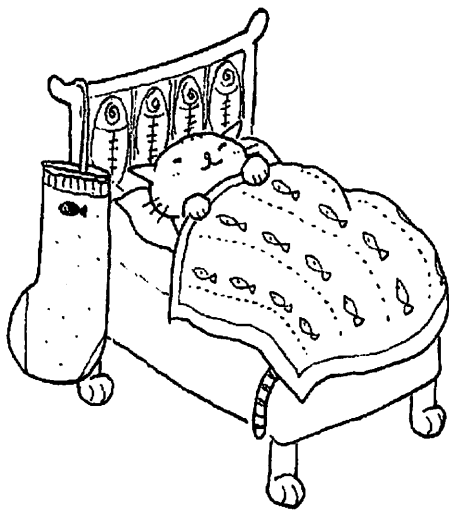
ふりかえるためでもあります。自分の今の生活はど

うなのか。現状をどう見るのか。今やるべきことは何

か。どうすれば、現状げんじょうを変えることができるのか。疲つかれ過ぎると、何もなに考えられなくなり、やることなすこと失敗しっぱいばかりということになります。そういう意味で、働きすぎないことが大切たいせつです。つねにゆとりを持つた生活せいかつが人ひとに必要なひつようのです。

解放かいほうのしるし

申命記しんめいきによると、「あなたはかつてエジプトの国くにで奴隷どれいであったが、あなたの神かみ、主しゅが力ちからある御手みてと御腕みうでを伸ばしてあなたを導みちびき出されたことを思い起おもこさねばならない。そのために、あなたの神かみ、主しゅは安息日あんそくび



を守るまもるよう命めいじられたのである」(5・18)と、休やすみには解放かいほうのしるしがあることを示しめしています。人は休やすむことにより、自分じぶんが解放かいほうされて自由じゆうの身みであることを意識いしきするのです。休やすみは活動かつどうの停止ていしではありません。新あらたな活動かつどうのみなもとなのです。